アヴニール労務事務所 所長 柿野元博
http://www.avenir-sr.jp
E-Mail avenir4you@gmail.com

編集後記　神さま HELP！

表紙は、七五三の時期に訪れた春日大社の参道の写真です。
七五三の由来には諸説あるようですが、昔は子どもの死亡率が高く、3歳、5歳、7歳の節目に成長を神さまに感謝し、お祝いをしたことが七五三の由来とされているようです。(^o^)/

日本は「八百万（やおよろず）の神」がいると言われるくらいですので、いたるところに神さまがいてくれて、多くの神社があります。神社の数はコンビニの数よりずっと多いんだそうです。
日本人はキリストの誕生日であるクリスマスをお祝いし、年末にはお寺で除夜の鐘を聞いて、そしてお正月には神社に初詣に行って、最近はハロウィンなんかでも盛り上がっています。外国人には不思議がられるようですね。。
都合に合わせて神さまを変え、自分に都合のいいお願いをしたり、運が悪い時は神さまのせいにしたり。期待や感謝、悩みも哀しみも神さまにぶつけます。「人間には不幸か貧乏か病気が必要だ。でないと人間はすぐ思い上がる。」と言ったのはロシア文学を代表する文豪ツルゲーネフですが、このパンデミックや震災も、家族や日常の有難みを人間に知らしめるため神さまが与えた試練なのではないか、なんて思う人もあるようです。
そんな人間のさまざまな思いを受け止めてくれる神さまという拠り所があるから、人は生きていけるようにも思います。「神さまが人間を作った」とされていますが、ある意味「人間が神さまを作った」ということもいえるのではないでしょうか。
それにしても、５円や１０円のお賽銭（僕の場合デス）で、神さまとはなんと割に合わないものかと思ってしまいます。キャッシュレス決済が広まったらもっと払うのにー！ (@_@;)ホント？

お世話になってる方に紹介されて「負けんとき -ヴォーリズ満喜子の種まく日々- 」（玉岡かおる著）を拝読しました。「ヴォーリズ満喜子」さんは、キリスト教伝道のため来日し、近江兄弟社を設立し、また建築家として高名なメレル・ヴォーリーズ氏と結婚し、幼児・児童教育に力を注がれた方です。
メレル・ヴォーリーズ氏は宣教師でしたが、日本の地域の風習や八百万の神をあがめる歴史を大切にしながら、プラスαとしてキリスト教の教えを広める方だったようです。「外から神がやって来たからといって在来の神々を排除するのではなく、ひとしく敬いあがめて融和させてきたのがこの国の民なのだ」と満喜子を通して書は語ります。今のいろんな宗教の風習が混在する日本にはそんな歴史があるのですね。

さて、出産直後の時期に男性が柔軟に育児休業を取得できるようになる改正育児・介護休業法が先月（9月21日）、閣議決定されました。4月1日から段階的に施行され、来年１０月には、いよいよ男性育休の制度が施行されます。これにより、母体にダメージが残る出産直後の時期に、父母がそろって育児と向き合えるように、子どもの生後8週間以内に最大4週間まで父親が育休を取れることとなります。
まだまだ中小企業においては男性の育児休業取得率が低い状況が続いていますが、少子化と人口減は国家的課題。先月積水ハウスが発表した「男性育休白書」によると、男性の育児休業に対して２０代男性の９８％が賛成しています。時代は徐々に変わってきているのは間違いありません。
一方、男が育児休業を取得することに対し、いまだ違和感を拭えない中高年の社員が多いのも事実。
今までの自分の価値観に新しい感覚をプラスαするというのが、頑固な年寄りにならない為に大切なことかもしれません。(^_-)-☆

前述のキリスト教が日本に浸透してきたときの話のように、我々日本人には、時世の流れを寛容に受け止め、これまでの価値観を調和して進化できる国民性があるのだと僕は思っています。

子ども達と育児をされる親御さん達と育児を応援する会社と職場の皆さんが、幸せを感じることのできる世の中になるといいですね。神さま、そこんとこよろしくー！(^o^)/